

## 植生保全対策実施状況

### 1. 植生保全対策（平成 19 年度に 5 カ年計画を策定）

#### （1）区域保全対策（防鹿柵）

①実施場所 減少傾向にある植物種、多様な生物の生息環境に着目した設置場所を選定。（図 1）

②選定理由 表 1、図 2 のとおり。

#### （2）単木保護対策（ラス巻き）

①実施場所 シカの剥皮により枯死しやすいトウヒ、ウラジロモミが主要構成樹種となっている東大台において、平成 19 年度に引き続き、中道周辺域・尾鷲辻まで実施。（図 3）

②実施対象 母樹。剥皮を受けやすく剥皮により枯死しやすい樹種  
（トウヒ・ウラジロモミ・コマツガ・リョウブ・アオダモ・マンサク・ナカマツ等）

③優先順位 ラス巻き実施から年月が経過している場所（要補修カ所）  
区域保全対策が実施されていない場所（未実施場所）

（風致景観上等の理由により防鹿柵の設置がなじまず、シカの食害が多い場所）

#### （3）周辺地域との連携

- ・引き続き「大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議」において、情報の共有化等連携を促進。
- ・グリーンワーカー事業（国立公園等民間活用特定自然環境保全活動：環境省事業）を活用し、今年度から東大台に隣接する上北山村有林で、単木保護対策（ラス巻き）を実施予定。

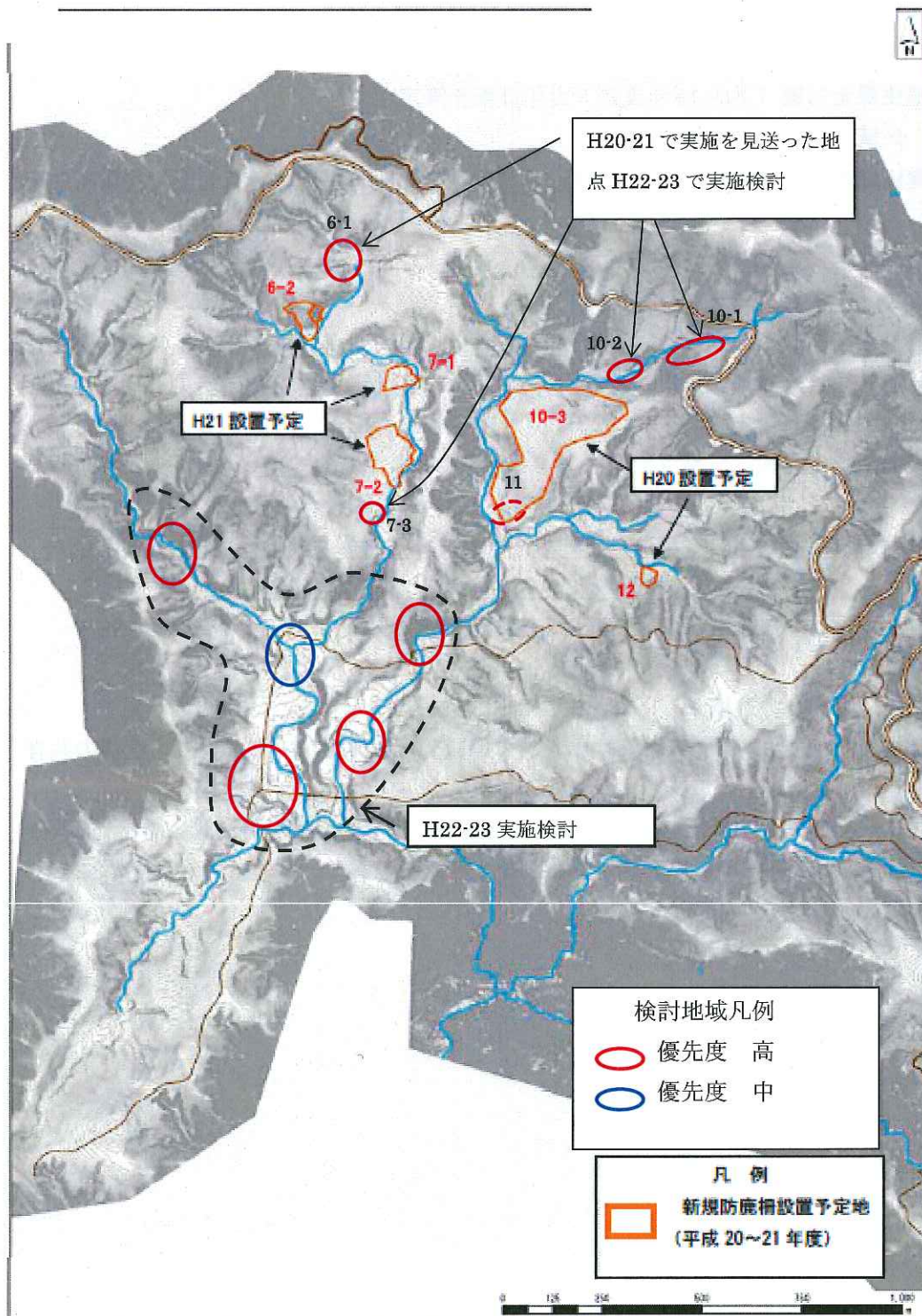


図 1 平成 20 年度～23 年度防鹿柵設置予定地点

設置年度	優先順位	地点番号	地域名	選定理由と設置方針
H20	1	10-3	カツラ谷	西大台の緩斜面に成立する森林の代表地点。シカの密度も高いことから、まとまった範囲を早急に保全する必要がある。 ※地点 10-3 を広く囲ったため、地点 11 (カツラ谷ヤマト谷合流部) については、地点 10-3 に含まれることになった。
	5	12	ヤマト谷 (湧水地)	伏流水から生じる湧水地環境があり、溪流沿いの多様性保全を目的として設置する。防鹿柵は、湧水地を中心に小規模に設置する。
H21	2	7-1	コウヤ谷	伏流水から生じる湧水地環境、ギャップや残積土、崩積土が混じり合っており、多様な環境が生まれている。多様性保全を目的として保全する必要がある。
	3	7-2	コウヤ谷	
	4	6-2	コウヤ谷 合流部	北側急斜面は、裸地になっており、放置すると崩壊地が拡大する恐れがあることから、防鹿柵設置と斜面保護を行うことにより、下層植生の回復と崩壊防止が期待できる。 また、谷部の植生は、潜在的にはメタカラコウなどのキク科高茎草本群落が安定して生育する場所であり、防鹿柵設置により、これらの群落の回復が期待できる。
H22 以降 検討	6	10-2	カツラ谷	森林更新の場として、ギャップを中心に設置し保全を行う。
	7	7-3	コウヤ谷	森林更新の場として、ギャップを中心に設置し保全を行う。
	8	10-1	カツラ谷	他の検討箇所 비해、優先度は低い。
	9	6-1	コウヤ谷 合流部	他の検討箇所 비해、優先度は低い。

表1 ヤマト谷、カツラ谷、コウヤ谷における防鹿柵設置の優先順位とその選定理由

※地点番号については、現地踏査の結果、H19 検討時の同一地点に複数の候補地点があったため枝番号を振った。

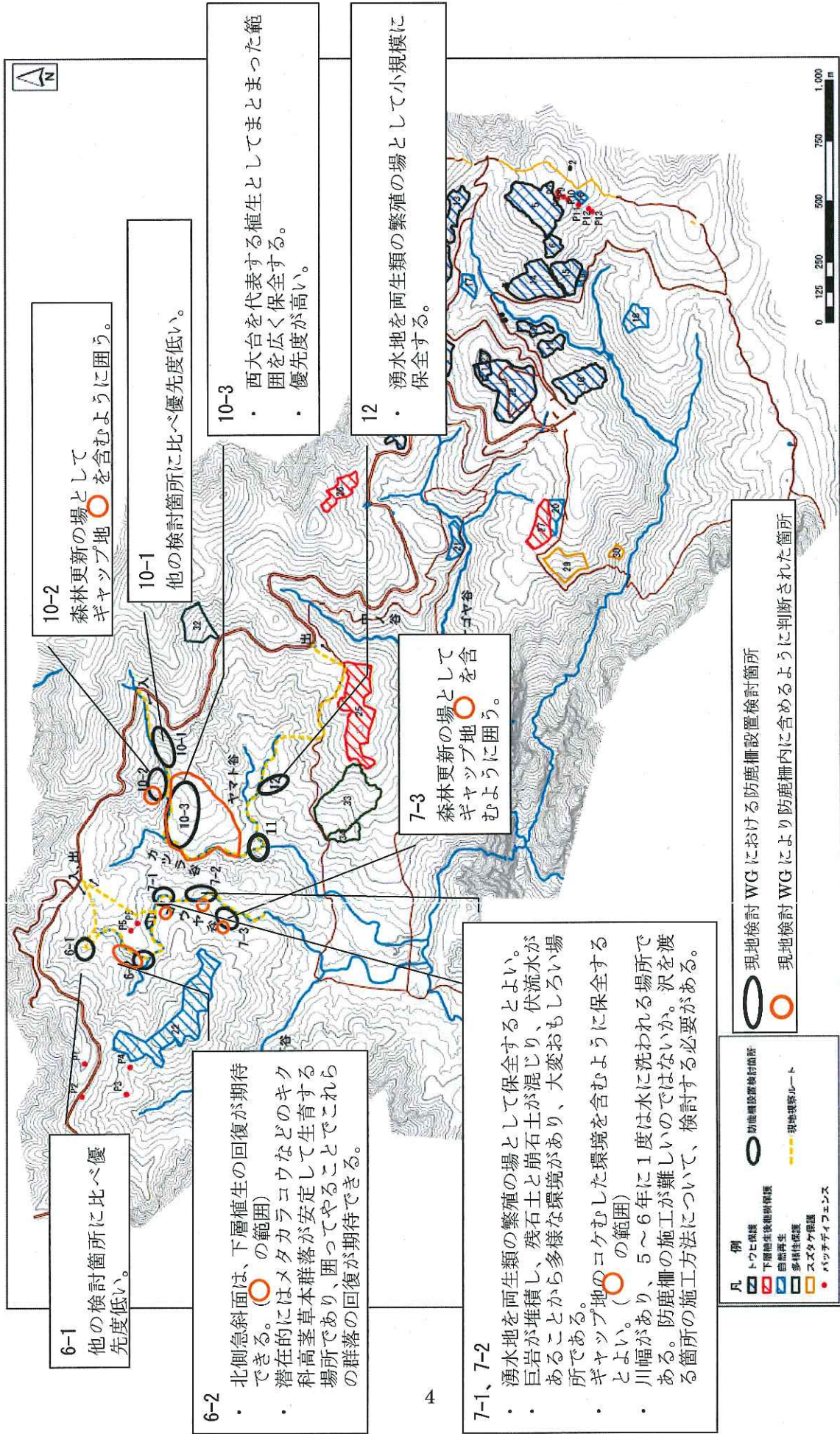


図2 ヤマト谷、カツラ谷、コウヤ谷における防鹿柵設置予定箇所

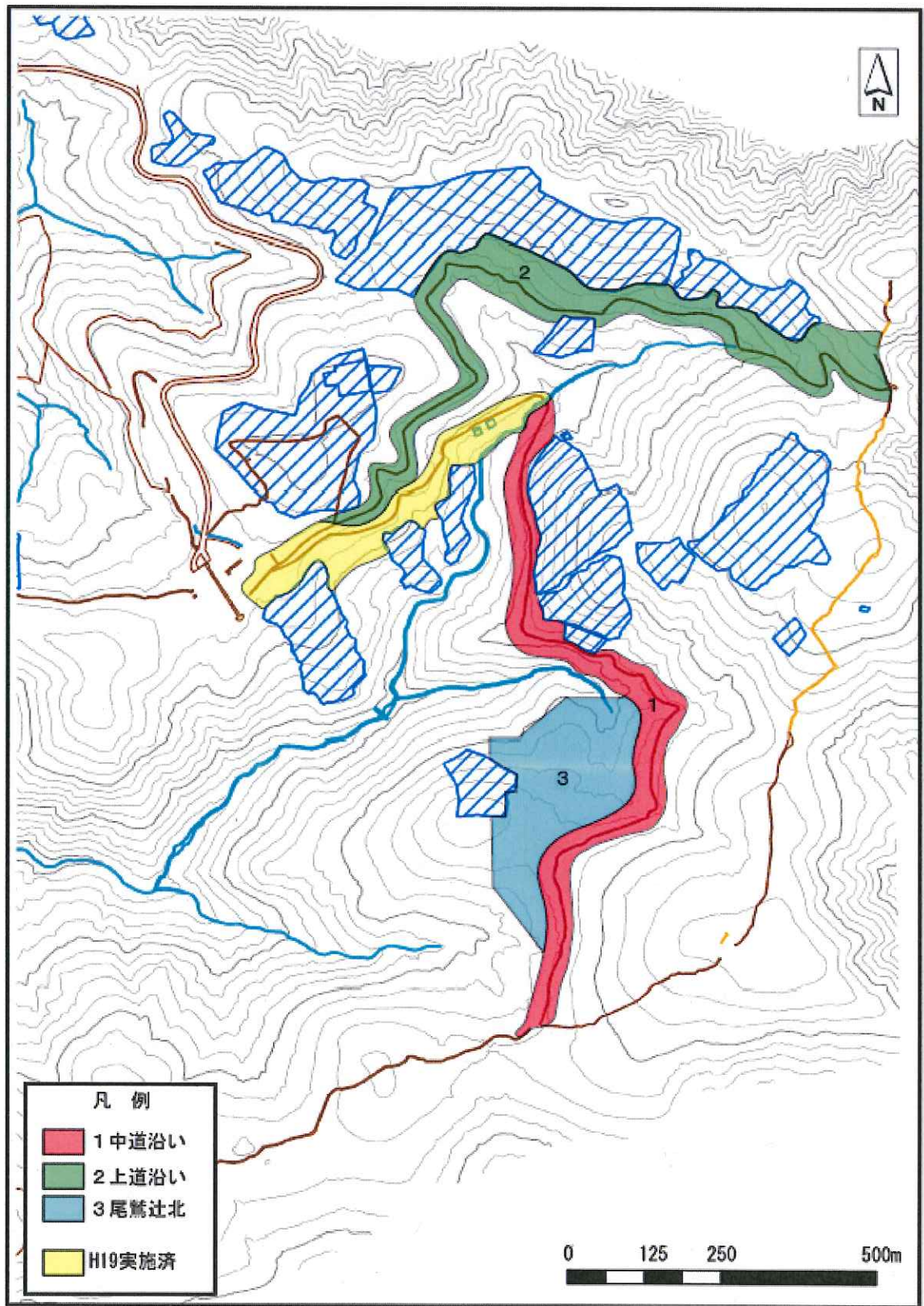


図3 平成19年度以降のラス巻き実施箇所